

## 第2回 放射線防護の民主化フォーラム

真実に目を向ける：福島が問いかける未来への選択を、いわき市から考える

セッション（前半）：ICRPの福島原発事故の捉え方や勧告策定のどこに問題があるのか？

セッション（後半）：市民にとって、よりよい放射線防護とは？

### ICRP勧告の問題点——実際的な観点から

2024. 11. 04

柿原 泰（東京海洋大学／NPO市民科学研究室・低線量被曝研究会）

## プログラム（15:40～17:40）

司会：柿原泰

（前半）ICRPの福島原発事故の捉え方や勧告策定のどこに問題があるのか？

- ICRP勧告の問題点――実際的な観点から（柿原 泰）
- ICRPパブリックコメントの問題点（林 衛）

（後半）市民にとって、よりよい放射線防護とは？

- 安全性の考え方：市民のエンパワーメントのために（八巻 俊憲）
- 市民主導の放射線防護：提言の概要（藤岡 毅）
- 関連諸団体への要望（瀬川 嘉之）

Q&A ディスカッション

## 本フォーラムの前史 これまでの取り組みから

- 2019年6月～ ICRP改訂草案、パブコメ受付  
<https://www.icrp.org/consultation.asp?id=D57C344D-A250-49AE-957A-AA7EFB6BA164>  
 市民団体\*による記者会見（受付期間の延長、日本語での受付を求める）、草案の日本語訳（暫定版）作成、学習会など  
[https://www.shiminkagaku.org/icrpdraft\\_20190902/](https://www.shiminkagaku.org/icrpdraft_20190902/)  
<https://www.ourplanet-tv.org/39755/> など
- パブコメ300以上 すべての日本語訳作成  
[https://www.shiminkagaku.org/icrpdraft\\_publiccomment2019\\_translation/](https://www.shiminkagaku.org/icrpdraft_publiccomment2019_translation/)  
 （論点整理、分析）  
 例：2020年9月 シンポジウム「放射線防護とは何か  
 ——ICRP勧告の歴史と福島原発事故の教訓」（『科学史研究』298号に掲載）  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhsj/60/298/60\\_150/article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhsj/60/298/60_150/article/-char/ja)
- ICRP Publ. 146刊行（2020年12月）  
<https://www.icrp.org/publication.asp?id=ICRP%20Publication%20146>
- 2021年2月 作成にあたった委員（甲斐倫明さん、本間俊充さん）を招いての討論会  
[https://www.shiminkagaku.org/icrppublicationsevent\\_20210220/](https://www.shiminkagaku.org/icrppublicationsevent_20210220/)
- 2022年3月～11月 市民科学研究室主催、連続シンポジウム「福島原発事故の経験から放射線防護のあり方を改める」（4回）  
[https://www.shiminkagaku.org/csijssymposium\\_icrp\\_202211/](https://www.shiminkagaku.org/csijssymposium_icrp_202211/)  
 避難者の経験、ICRP Publ. 146の問題点、市民のための放射線防護指針の作成に向けて
- 2023年7月～ 連続ウェビナー
- 2023年11月3日・4日 第1回放射線防護の民主化フォーラム@福島市
- 2024年11月3日・4日 **第2回放射線防護の民主化フォーラム@いわき市**

### 討論会報告書

[https://www.shiminkagaku.org/icrpeventreport\\_20211006/](https://www.shiminkagaku.org/icrpeventreport_20211006/)

\* 原子力市民委員会、原子力資料情報室、国際環境NGOグリーンピース・ジャパン、国際環境NGO FoEジャパン、高木学校、「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク、放射線被ばくを学習する会、市民科学研究室・低線量被曝研究会

# ICRP Publ. 146から主勧告（基本勧告）の改訂へ

1990年勧告（Publ. 60） 日本では、2011年震災時はほぼここ

**2007年勧告**（Publ. 103）：状況に基づくアプローチ（計画被ばく／緊急時被ばく／現存被ばく状況）

『緊急時被ばく状況における人々の防護のための委員会勧告の適用』（Publ. 109）2009年

『原子力事故または放射線緊急事態後の長期汚染地域に居住する人々の防護に対する委員会勧告の適用』（Publ. 111）2009年

Publ. 109とPubl. 111の改訂として**Publ. 146『大規模原子力事故後の人々および環境の放射線防護』**（2020）

2030年代に**主勧告の改訂**をすべく進行中

# ICRP勧告とは

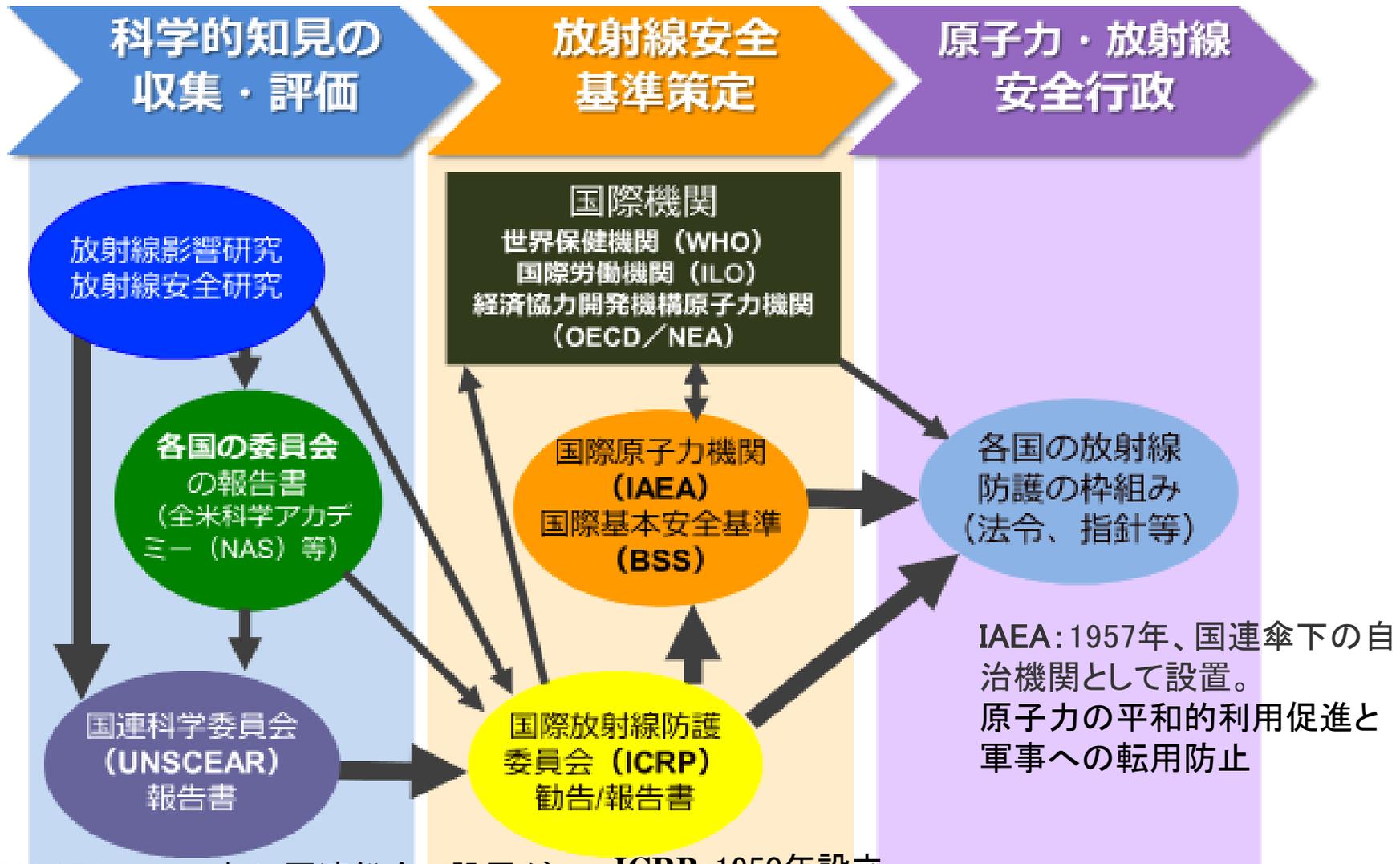
## ICRP（国際放射線防護委員会）

専門家が放射線防護に関する勧告・報告書をまとめ、公表する国際的な組織で、非政府機関

- ・ ICRP 曰く「放射線防護に関わる事実上すべての国際基準と各国の国内規則は、[ICRP]の勧告に基づいている」（実際には必ずしもそうではない）
- ・ 2011.03.21 ICRPメッセージ発出（例外的）
- ・ 日本の放射線審議会は、ICRP Publ. 146の刊行（2020.12）直後、取り入れの審議を開始し、第155回総会（2022.02.18）にて「放射線防護の基本的考え方の整理」（2018）を改訂

# 放射線防護の体制

- 環境省、量研機構（放医研）「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（令和2年度版）」（斜字部分は加筆）

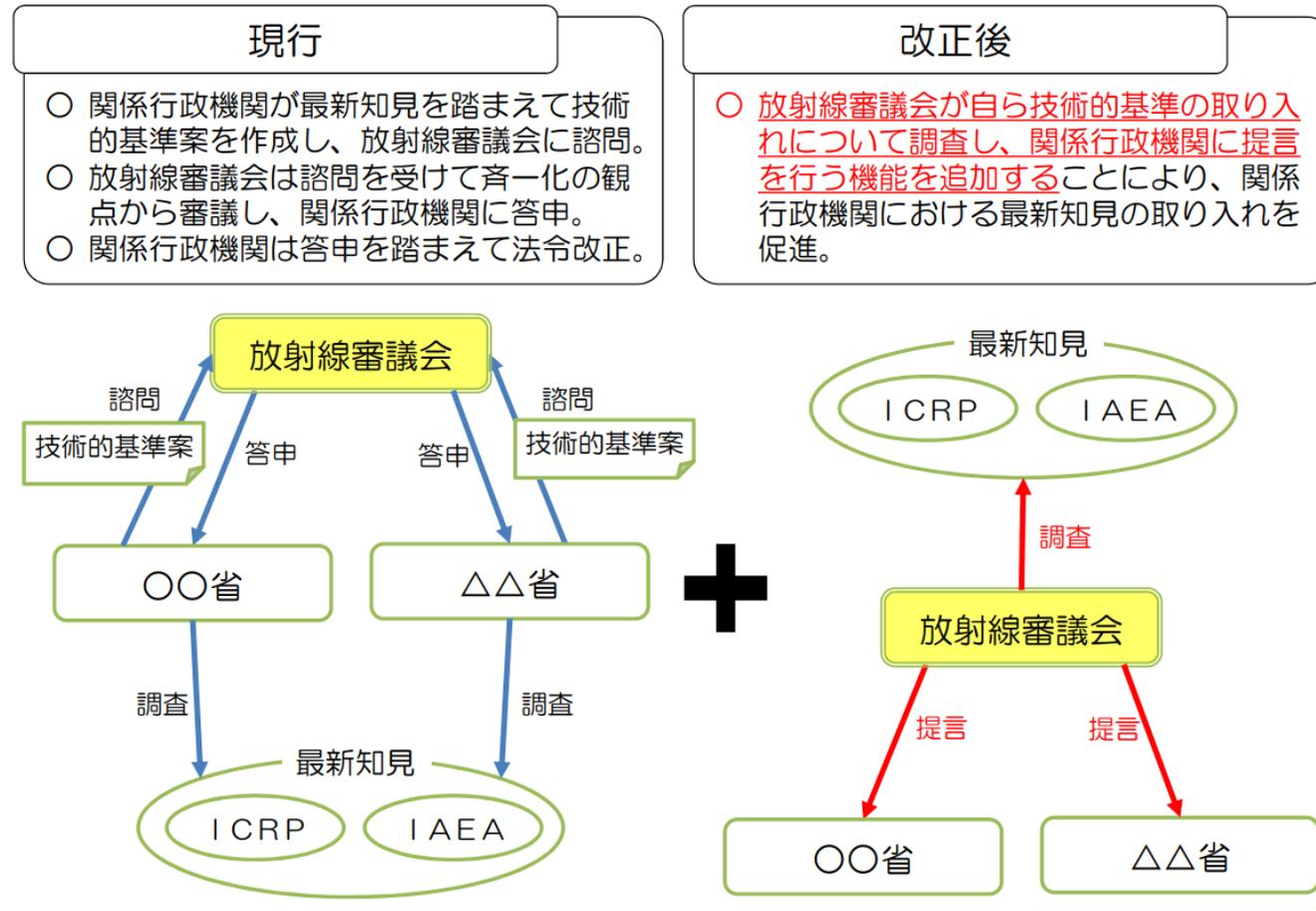


UNSCEAR: 1955年に国連総会で設置が決定。線源と影響に関する科学的知見の取りまとめ

ICRP: 1950年設立。前身は、1928年に国際X線・ラジウム防護委員会として設立

原子力規制庁「放射線審議会への調査審議・提言機能の追加」（2016年2月）資料より抜粋

## 2. 技術的基準法改正による放射線審議会所掌事務の変化



# ICRP勧告の持つ意味

ICRPの勧告・報告書 → 国の放射線防護の枠組み（法令、指針など）

← 注視し、問題点の指摘、改めさせる働きかけ

他方で、

日本の放射線防護の実際は、どうか？

改めるには、どうするか？

# ICRPの勧告・報告書（Publication）

- ICRP Publication（1960～ ） 刊行物、報告書、関連文書  
基本勧告（防護全般）、より専門化された課題に特化した報告書
- 防護全般 基本勧告、その他
- 放射線の生物影響
- **緊急時および事故後の防護**
- 被ばく――公衆（母親、胎児を含む）
- 被ばく――作業員
- 放射性廃棄物
- 環境
- 線量関係データ集

← 医学医療関係（作業員、患者）のものが多い

# ICRP Publ. 146から主勧告（基本勧告）の改訂へ

1990年勧告（Publ. 60） 日本では、2011年震災時はほぼここ

2007年勧告（Publ. 103）：状況に基づくアプローチ（計画被ばく／緊急時被ばく／現存被ばく状況）

『緊急時被ばく状況における人々の防護のための委員会勧告の適用』（Publ. 109）2009年

『原子力事故または放射線緊急事態後の長期汚染地域に居住する人々の防護に対する委員会勧告の適用』（Publ. 111）2009年

Publ. 109とPubl. 111の改訂として**Publ. 146『大規模原子力事故後の人々および環境の放射線防護』（2020）**

2030年代に主勧告の改訂をすべく進行中

## ICRP Publ. 146の特徴

- ICRPの防護の3原則（正当化、最適化、線量限度）
- ICRPの勧告（2007年勧告やPubl. 146）  
被ばくの状態による（**緊急時**、**現存**、**計画**）  
**参考レベル** ← 線量限度は、平常時（計画被ばく状況）にのみ適用
- 事故 初期・中期・長期に分ける
- ステークホルダーの参画の必要性
- 共同専門知 専門家との協力
- 防護における倫理

## ICRP勧告の特徴と問題点

- ICRP勧告の作られ方

ICRP Publ.の改訂の積み重ね（参考文献に過去のICRP Publ.）

UNSCEAR 科学論文のレビュー

「業界」雑誌の論文？

- 実際の施策（法制度など）にどうつながるか？

政府レベルで実際的には適用されないもの（例：参考レベル—段階的に引き下げる）

とくに政府・事業者の責任を明確に規定すべき（被ばく状況をもたらしたもの）

- パブリックコメント（受け付けることを続けていることは評価できるが.....）

## ICRP勧告の特徴と問題点

- 市民的観点を重視した社会科学的な検討を充実させるべき（被災者・避難者の聞き取り、人権の観点を重視した法的側面.....）
- ステークホルダーの参画（誰が入るのか？ どのように関与するか）
- 共同専門知（ICRPの専門家との共同のみが取り上げられる。例：エートス ← 批判的な研究もある  
政府の失敗、専門家の失敗をはっきりさせる
- 倫理的側面（手続き上の価値：説明責任、透明性、包括性）  
根本的に問う必要

## ICRP勧告の問題点

### 避難者

「自主避難者も含めて、帰還するかどうかは、その人の権利であるし、その人達を尊重しなくてはならないこともちゃんと文章の中に書いてあるわけです。自主避難者も含めて、その人達の選択を、「行政当局はきちんと支援すべきである」ということを、ICRPは明記しております。ただそれは、具体的に、たとえば日本政府はどうしているかまでは、これはもうICRPの問題ではなくなってしまいます..... ICRPは支援が必要であることは述べてはいますが、具体的な中身までは述べていません。それは各国の事情もあるだろうし、それぞれの状況によっても違いますから、どういう支援の仕方かというのは当然違って来るからです」（甲斐倫明）

## 安定ヨウ素剤の配布・服用

### 福島原発事故時の配布・服用

#### 昨日のセッションの三春町の例

その後、教訓をふまえて、どのような対応策になっているのか？

#### 「国会事故調」

「住民に対して空間線量や原子炉の状況に応じ適時にヨウ素剤の服用指示を行うことができるためには、運用上の介入レベルとしてのヨウ素剤の**服用基準**を定めたり、服用指示を速やかに**住民に伝達**するための**市町村の対応策**を準備する必要がある」

## 安定ヨウ素剤の配布・服用

「原子力災害対策指針」（2021.07.21、原子力規制委員会）

「放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくの予防又は低減をするため、原則として、原子力規制委員会が**服用の必要性を判断**し、原子力災害対策本部又は地方公共団体の指示に基づいて、安定ヨウ素剤を服用させる必要がある。」

最新の「原子力災害対策指針」（2024.09.11）

配布・服用の体制「**適切なタイミングで**服用できるよう、その準備をしておくことが必要である」

「服用の目的や効果とともに服用のタイミングや服用を優先すべき対象者等については事前に周知する」

配布方法はやや詳しく示されているが、「適切なタイミング」とは？

## 安定ヨウ素剤の配布・服用

### 事故後の原子力安全委員会での議論（被ばく医療分科会）

- 2012.01.12 細井義夫  
各自治体等で独自に判断できる体制作り  
空間線量率をスペクトルサーベイメータで直接測定することにより判断（1歳児 甲状腺等価線量 50mSvに相当するI-131の空間線量率は2 $\mu$ Sv/h）
- 2012.02.07 細井義夫  
シンチレーションサーベイメータの空間線量率を用いる  
10-20 $\mu$ Sv/h
- その後、鈴木元からのコメントが寄せられた。  
判断基準は取入れられていない。

# これまでの放射線防護 → 改めるには

- 科学的にも問題多い（レビューの偏り、取り上げられない研究）
  - まっとうな科学研究を踏まえるように
- 放射線被ばくをもたらすことになった責任を問うていない
  - 責任を問い、構造を変えていく
- 市民を守るものになっていない、人権が侵害される事態も
  - 防護の基本的方向性を変える 人権を重視する

← 原発事故（チェルノブイリ、福島）の経験をきちんと踏まえられていない

→ 経験をきちんと踏まえる

- ICRP勧告の決められ方、日本政府の施策の決められ方  
(ICRP勧告の何を取り入れ、取り入れていないのか?)

誰が、どのように、決めているのか（決定プロセス、責任の問題、利害関係など）？  
その結果、誰をまもっているのか？

→ 変えていく

## 市民のための放射線防護に向けて

- ICRP勧告改訂（新たな主勧告・基本勧告）に対して  
批判的な科学論文をもっと  
動向をウォッチし続け、パブリックコメントにも

ICRP勧告を微修正できたとしても、根本的な考え・方向性が変わらなければ

- 市民の観点から  
とくに原発事故後の経験から見た問題点について批判的な検討を重ね、それらをまとめ（今回のイベントを含め、これからも）、市民のための放射線防護になるよう、提言を。
- どのように進めるか？  
専門的批判の組織化（高木仁三郎）＋市民の観点から  
さまざまな調査・研究（個人、グループ……）をどう集約するか